問 野上交差点改良の必要性について

Q1 事故発生件数の多い野上交差点改良の必要性について伺う。

答（藤掛建設課長）

平日の朝は野上や和知工業団地へ向かう車が多く、コメリの前からライスセンターへ向かって、渋滞することも認識しております。以前は、交差点から上飯田方面へ向かって大変渋滞しておりました。これは南北方向の青信号の時間が短かったため、自然渋滞が発生していました。そこで、町から岐阜県警に対し、南北方向の青信号の時間を長くしてもらうよう要望しましたところ、信号の時間が調整され、渋滞が解消されました。

また、この交差点付近は小中学生の通学路になっております。子どもたちはコメリ西の町道の横断歩道と、国道418号の横断歩道の2ヶ所を横断して通学しなければならず、危険な道路だと考えております。

これらの点を踏まえますと、交差点の改良や歩道の整備による歩行者の安全対策、渋滞緩和対策は必要だと考えております。

この交差点は県道交差点ですので、交差点の改良や歩道の整備事業は県が行うものです。町としましては事業を行なってもらうよう、県へ要望しております。交通量や交通事故の多さ、通学路の有無、改良する場合の用地買収や建物移転の必要性、費用対効果などを検討する必要があります。

夜間点滅信号を廃止してはどうかにつきましては、現在、この信号は夜間、赤と黄色の点滅信号になっています。岐阜県警に問い合わせたところ、この交差点は夜間の交通量が少ないため、点滅信号にしているとのことです。夜間の交通量が少ない交差点で、昼間と同じ赤、青の信号制御を行うと、信号無視をする車が必ず出てくるそうです。そうすると、交通事故が増える可能性があり、反対に危険になるとの回答でした。

八百津中学校

問 八百津中学校の藤棚等、備品管理の考え方について

Q1 八百津中学校の管理状況や校舎周辺の環境整備について伺う。

答（堀部教育長）

八百津中学校では、校務員1名、スクールスタッフ1名を雇用しております。1日6時間の勤務です。業務は、給食の準備や後片付け、壊れているところや危険なところの確認、清掃活動、教師のサポートなどです。

業務の中で、子どもたちが、安全で美しい環境の中で学校生活が送れるよう、教員の仕事の支援をしています。

また、シルバー人材センターに委託し、年2回、木の伐採や草刈りなどを行っています。本年度は、7月と9月に実施しています。

教職員も、普段から美しく安全な学び舎にするために環境整備に力を入れています。学校施設の安全点検も行っています。

今後は町として、予算を考慮しながら、必要性等から優先順位を決め、藤棚等を含め、環境整備に力を入れていきたいと思います。

問 ゾーン30制度の運用再検討について

Q1 危険な物の除去や観光地らしい意味合いから、道路標示やカラー舗装等を改めて検討してはどうか。

答（藤掛建設課長）

ゾーン30とは、区域つまりゾーンを定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、路側帯の設置や拡幅、カラー舗装などの安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度の抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為を抑制するなど、生活道路における安全対策です。

ゾーン30の指定を受けるにはいろいろな規則があります。まず、定めようとするゾーン内に公共施設や学校、保育園、福祉施設や病院があること、交通量や歩行者数などの基準があります。何より、現時点でゾーン内を抜け道として通行する車両が多くあり、歩行者が危険にさらされていることがあげられます。町内でこの基準に合うのは役場、八百津小学校、ファミリーセンターの周辺区域が考えられますが、警察に確認しましたところ、ゾーン30として指定するには、基準と照らし合わせて考慮しても難しいのではないかとの回答でした。

現在、主要地方道多治見白川線の宮島から竹井、木野にかけての路側帯は緑色の塗装、通称グリーンベルトが設置されております。これは通学路に指定されている道路の路側帯を緑色表示することで、車のドライバーから視覚的に歩行者の通行するところを認識してもらい、歩行者の安全を確保するものです。グリーンベルトは子どもたちの安全を確保するために、あくまで通学路に設置をしていることをご理解下さい。

後藤一夫議員

問 小学生の通学の現状について

Q1 重いカバンを背負っての通学は、健全な育成に良くないと思われるが、改善策について伺う。

答（市岡教育課長）

町内小学校では、地図帳や資料集、図工や書写の教科書などは学校に置いていくように指導しており、学期始めや学期末に携行する大きな学用品については、分散して携行することや保護者にお願いするなど負担軽減に努めております。学校に置いていってよいものは、どの学校も学年ごとに詳細に規定しており、学校が全力をあげて携行品の削減に取り組んでおります。

今後も、児童の健全な発育と通学の安全の確保のため、携行品の適正な分量に配慮し、見直しをしながら実行するよう指導していきます。

八百津小学校